

## 国内事業報告

報告:佐藤静香  
(LIFE職員)

### ◆ボランティアさん大活躍

学校法人等の依頼でボランティア会や講習会などを開催しました。また11月～2月にかけて切手の貼り付けボランティアを約3年ぶりに実施しました。延べ約20名の方がご参加下さり、ありがとうございました。

詳細はLIFE公式ブログにて紹介

<https://earth-ngo.jp/20221202/>



イベントサイトpeatix:

<https://life-ngo.peatix.com/>

※LIFEをフォローするとイベントやボランティアの最新情報が届きます。



### ◆イベント出展報告:ご来場ありがとうございました

- ・グローバルフェスタJAPAN2022:2022/10/1～10/2
- ・ふれあい満点市場:2023/2/11～2/12
- ・つながる!!Tokyoボランティアフェスタ:2023/3/12

LIFEの活動紹介やボランティアのミニ体験などを行いました。ブースのお手伝いボランティアさんご協力ありがとうございました。またブースで熱心にお話を聞いて下さったご来場様に御礼申し上げます。



### ◆告知:メーデー中央大会

2023/4/29(土)10:00～13:00 in東京都代々木公園

活動紹介の他、スンバ島の伝統衣装の紹介、伝統音楽ゴンの演奏などを予定しています。

詳細はこちらからご覧ください。

<https://www.jtuc-rengo.or.jp/activity/kizuna/mayday/>



\*\*\*\*\*  
編集後記

「水って毎日使えるの?」

三年前、私たちの常識が彼らの非常識であると痛感し、「彼らの常識」を変えるべく、バリ島給水プロジェクトを立ち上げました。

水源・水路の整備や水道管の交換により水源からの給水量は4倍に増加し、乾季でも十分な量を確保できるようになりました。また、村長・各集落長で構成した水道組合を作り政治的にも強固な組織にし、近隣の国立大学や水道局といった外部機関が援助に入る体制を構築したことで、持続的な給水活動が可能な礎を築きました。

3月で無事終了したプロジェクトは、第25回日本水大賞国際貢献賞を受賞しました。日頃ご支援頂いている皆様と共に頂いた賞です。三年間、本当にありがとうございました。 賛助会員・山田 優志

\*\*\*\*\*

▼第87号を作った人たち  
杉崎智子、山田優志、瀬上友見、米山敏裕、佐藤静香、古賀麻美

会員を募集しています。

会員になると――

- ・会報「みらいの樹」をお届けします。
- ・イベント、催し物などのご案内をお届けします。
- ・国際協力関連の図書、資料などを閲覧できます。
- ・正会員は年次総会での議決権があります。

会員の種類と年会費――

- ・正会員:個人12,000円、団体20,000円 ・賛助会員:6,000円
- ※会費は寄付金控除の対象外です。

マンスリーサポーターを募集しています。

マンスリーサポーターになると――

- ・継続的にLIFEの活動をサポートできます。
- ・月々のサポート金額1,000円～。任意の金額を設定できます。
- ・クレジットカードからの自動引き落としです。



手続きは――

オンライン寄付サイトGiveOne(ギブワン)で。  
<https://giveone.net/>

会費・ご寄付のお振込みについて

ご寄付は常時受け付けています。用途の指定のないご寄付の他、事業内容や国を指定したご寄付も可能です。事務所までお気軽にお尋ねください。毎月の引き落としもできます。

振込先: ゆうちょ銀行 019支店 当座 0400590【00180-9-400590】  
特定非営利活動法人 地球の友と歩む会

※会費をお振込みの方や領収書の発行を希望される方は必ず払込票等でご連絡先を事務局にお伝えください。

**LIFEは認定を取得しました。**  
**2021年12月13日からのご寄付は寄付金控除の対象となります。**



認定NPO法人 地球の友と歩む会 LIFE/Live with Friends on the Earth  
〒102-0071 東京都千代田区富士見2-2-2東京三和ビル503号  
TEL:03-3261-7855 FAX:03-3261-9053 E-mail:life@earth-ngo.jp



地球の友と歩む会/LIFE会報  
発行人: 横山 紘三  
発行: 認定NPO法人  
地球の友と歩む会/LIFE

No.87 2023年 4月発行

LIFE: Live with Friends on the Earth

みらいの樹



### ライバンダック小学校にて昼食を食べる小学生

スンバ島の栄養改善事業では、貧困から日ごろあまり食事ができない子どもたちに月に一度栄養バランスを考えた食事を提供しています。日本の子どもだったら残しがちなニンジンやインゲンもスンバ島の子どもたちは全く好き嫌いをすることなくペロリと食べています。



LIFEの実

杉崎智子さん

大学時代にインドネシアのスタディツアーに参加したことがLIFEとの出会いです。

現地の人たちの笑顔、やさしさ、熱い想いに魅了されるとともに、価値観が大きく変わる貴重な経験をさせてもらいました。お世話になった現地の人たちに恩返しができたらと、その後インターンに参加。会報誌づくりや切手仕上げ、イベントなどを通じて、日本にいながも国際協力に携わることができる楽しさや、やりがいを教えてもらいました。

今は、難民支援のNGOで広報担当として働いています。LIFEでの経験や出会った人たちとのつながりが、今の自分の大きな力になっています。

賛助会員・杉崎智子(旧姓:中坪)

### インドネシア文化紹介

～インドネシアのタバコ事情～

インドネシアのタバコパッケージはどれも衝撃的で、思わず売店で見るとってしまおう。肺病や咽喉痛、口腔癌がひどい状態となった画像。健康を損なうことへの警告がストレートに表現されている。こうなっちゃうよ、それでもあなたは買いますか?と問われている気がする。



インドネシアは、男性喫煙率が約70%の喫煙大国。子ども達は受動喫煙にさらされているだけではない。青少年の喫煙率も約19%と非常に高い。学校の周りで簡単にタバコが買え、販売時に年齢確認はない。一箱がそれほど高価でなく、一本単位でも買ってしまう。子ども達がターゲットにされているようだ。 インパクトのあるパッケージもいいが、もっと厳しい規制が必要かと思う。 瀬上 友見

ご寄付・ご協力ありがとうございます。※2022年11月1日～2023年3月31日まで

- インド指定寄付2名 ■インドネシア指定寄付2名 ■マンスリーサポーター3名
- 無指定・クリスマス年末募金147名
- きしゃぼん募金14名 ■インターンシップ参加1名 ■ボランティア参加20組

※プライバシー保護の観点から芳名掲載は取りやめています。ご了承ください。

LIFEは認定を取得しました。2021年12月13日からのご寄付は寄付金控除の対象となります。

## インド事業報告

報告:米山敏裕  
(LIFE理事)

### 教育ローン事業支援終了

2012年から開始されたSHG(女性の自助努力グループ)メンバー子弟への教育ローンの支援事業も当会は2022年12月をもって終了しました。この事業はCIRHEPという農村開発を推進してきたNGOの要請で農村部においても高等教育を受ける機会をもってもらうことを目的として創設された事業でした。2012年には11のSHG連合から2名の男子高校生が選定されて工業系の大学へ入学するためのローンが支給されました。以降別の地区のSHGではヤギの購入にローン制度が設けられ4年後には子弟の高等教育進学資金のためにローンが活用されてきました。2019年にはSHGメンバーへの高学年進級のためにローンが活用されました。2022年までに47名が教育ローン制度を利用し、融資金額も366万ルピーとなりました。この10年間の運営は紆余曲折でSHGメンバーによる返済率や返済滞り者への対応、管理運営費の念出など苦勞の多い時期が続きました。パンデミックの影響や担当者の病気などで活動が停滞する時期もありました。今後は融資にともなう返済時の利息を上げたりすることも協議し継続的な運営が求められています。

### 女性グループメンバーによるマッシュルーム栽培

2022年9月から開始されたマッシュルーム栽培技術研修には20名が参加し、栽培が開始されました。今後は販売先の開拓や継続的な管理運営が計画されています。



▲今後のSHG教育ローン運営についての会議に集まったメンバー

### 有機農業復興事業フォローアップ

昨年度の調査では掘削井戸3基の故障により給水が止まっていたのですが、部品などの交換により3基とも取水できるようになり、生活用水や果樹への水遣りに用いられています。



▲故障した掘削井戸の修理を訴える老人

## インドネシア事業報告

報告:古賀麻美  
(LIFE職員)

### 栄養改善事業

味の素ファンデーション様のご支援による栄養改善事業は、2023年4月より3年目(最終年)に入りました。事業内容に日本の小児科医が対象児童の健康状態を診るという項目があります。1年目



▲瀬上医師。過去に二度LIFEのワークキャンプに参加し、スンバ島でボランティア活動を体験。

はコロナの影響で渡航できず、この3月(事業2年目)にやっと実現しました。スンバ島には小児科医が数名しかいません。しかも、全町町の病院に勤めています。村の子どもが小児科医にかかることは初めてで、スンバ島のお医者さんも勉強のために事業地へ同行しました。

子どもたちの体全体を見て健康状態を確認したり、ノギスで背中をつかみ痩せ具合をチェックしたりしました。多くの子供がまったくつかめないかほんの少しかめる程度で、やせている子が多かったです。当プロジェクトでは、親たちが野菜作りを学んで収入を得られるようになることも同時に進めています。様々な食材を購入できるようになり子どもたちが健やかに成長することを目指します。



### 飼料用トウモロコシ支援

連合「愛のカンパ」様の助成によりインドネシアのスンバ島で飼料用トウモロコシ栽培による村人の収入向上支援事業を行っています。インドネシアで使われる家畜の飼料のうちトウモロコシの割合は6割を占め、その多くを輸入に頼っています。近年の国際情勢から輸入トウモロコシの価格が上がっていることを受け、インドネシアのジョコウィド大統領は輸入から国産へ移行するよう奨励しています。スンバ島の主食はトウモロコシのため、スンバ島の農家さんはトウモロコシの栽培に慣れています。そこで、スンバ島の農家さんが飼料用トウモロコシの栽培も行い収入を増やすことがこのプロジェクトの目的です。有機肥料で育てられる飼料用トウモロコシはすくすく育ち、収穫の時期を待っています。



### 2018年バナナ復活支援

2018年の「夏のひまわり募金」では、スンバ島全体で壊滅状態となったバナナを復活させるべく皆さまからご支援を頂きました。集まったご寄付でジャワ島からバナナの苗木を輸送し、現地NGOマラダによりたくさんの島の人たちに配られました。今では、この時に分けた苗木がスンバ島のあちこちで大きく育ちたくさんのバナナを実らせています。

